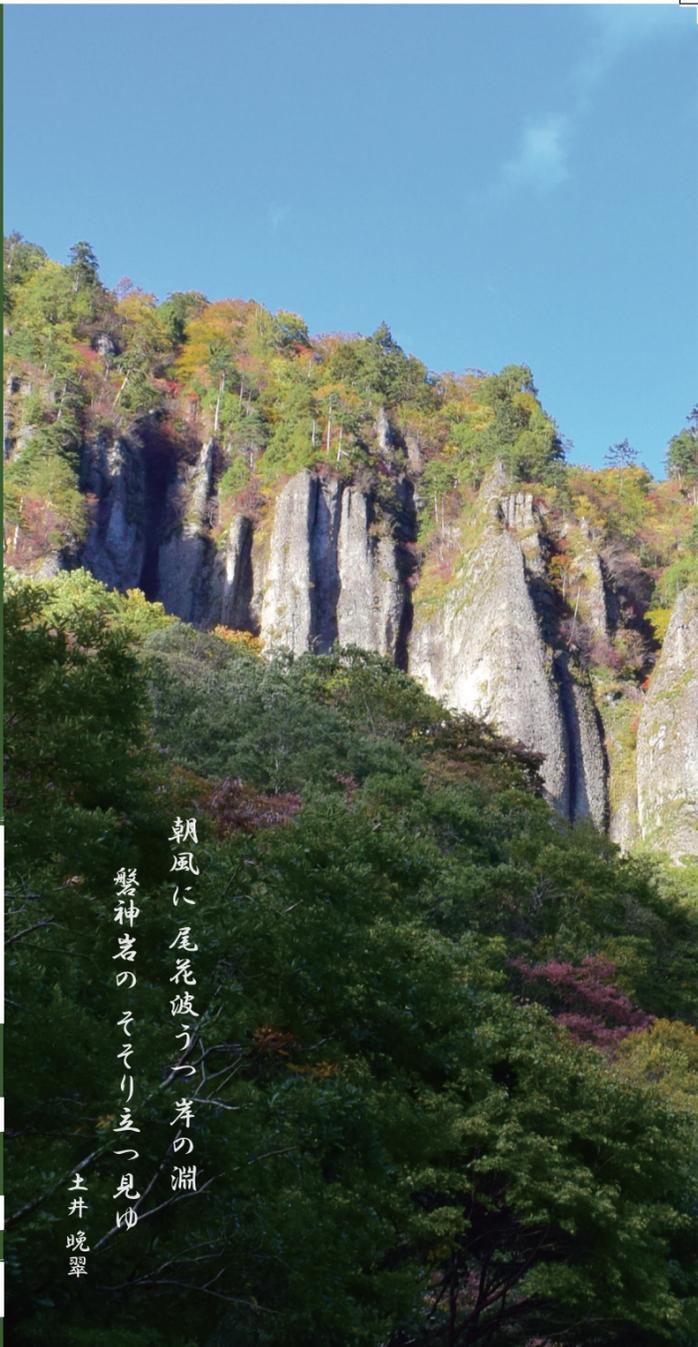


四季折々に豊かな個性が輝く秋保。  
とりわけ、そそり立つ磐司の先に広がる奥秋保の”秋”は、「息をのむほどの艶やかな錦！」で訪れる人々を魅了します。  
また、古の足軽集落(野尻)から二口峠、そして山寺へと向かう道は、慈覚大師円仁巡錫の道と伝わっています。  
今は人も途絶え、静かに時を刻んでいるこの峠道も、かつては「武士」が対峙し、あるいは「修験」や「交易の要路」として栄えた道でもありました。  
こうした悠久の時の流れに思いを馳せながら、林道沿いに介在する秋保が誇る二口山塊の大自然に触れる山歩きの旅、魅惑のロングトレイルとはなりますが、足を踏み出すことにゆっくりとポジティブな気分になってくるのが分かります。

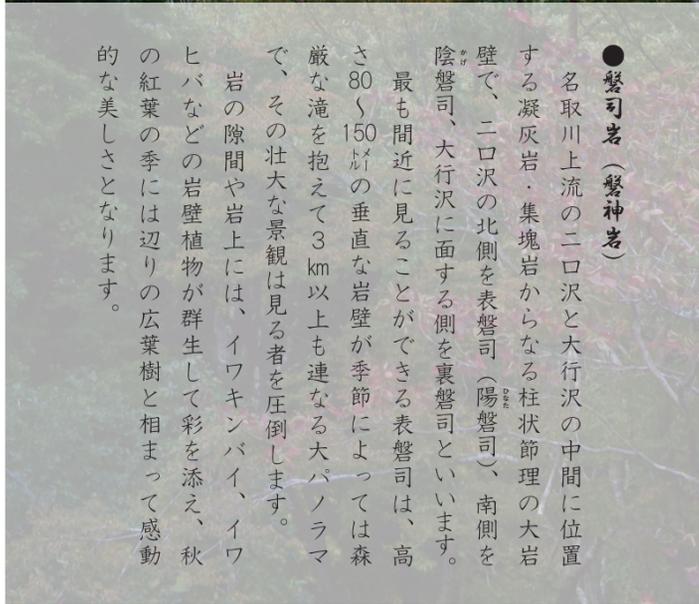
さあ、ザック一つ背負って週末は二口峠越えの旅、いかがでしょうか。



## 二口峠越え



朝風に 尾花波うつ 岸の淵  
磐神岩の そそり立つ見ゆ  
土井 晚翠



### ● 磐司岩 (磐神岩)

名取川上流の二口沢と大行沢の中間に位置する凝灰岩・集塊岩からなる柱状節理の大岩壁で、二口沢の北側を表磐司(陽磐司)、南側を陰磐司、大行沢に面する側を裏磐司といっています。  
最も間近に見ることができる表磐司は、高さ80〜150mの垂直な岩壁が季節によっては森厳な滝を抱えて3km以上も連なる大パノラマで、その壮大な景観は見る者を圧倒します。  
岩の隙間や岩上には、イワキンバイ、イワヒバナなどの岩壁植物が群生して彩を添え、秋の紅葉の季には辺りの広葉樹と相まって感動的な美しさとなります。

## 秋保 二口峠越え

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市  
連絡先：秋保総合支所総務課 (022-399-2111)  
秋保市民センター (022-399-2316)

二口山塊の大自然を満喫しながら、  
山寺への古街道をトレッキング  
峠越えで行き来した先人たちの声を聴く旅

名称の由来は、山姫と猿王の間に生まれ、マタギの祖とされる磐次郎・磐三郎という容貌魁偉な狩人(磐司磐三郎という単身説もあり)が、この山塊一帯に住み山野を疾駆して狼を狩っていたことにちなむといわれています。  
民俗学者の柳田国男は、その著「神を助けた話」の中で、磐司は磐神信仰(磐神IIイワガミ・岩を神として崇めたマタギの守護神)による地名であると説いています。  
古来より、秋保に訪れた旅人の多くが最たる景勝地として記し、今なお二口山塊の奇勝たる風景の主役となっています。

掲載されている情報は、平成28年5月現在のものです。

訪れてみたい秋保  
二口街道ツアー 62

No.1

## 山寺「立石寺」



山寺の通称で知られ、貞観2年(860年)に清和天皇の勅命で慈覚大師(円仁)により開山されました。比叡山延暦寺の別院で奥羽の布教拠点として位置づけられ、戦国時代の延暦寺焼失による法燈消滅の際は、この立石寺から再燃されています。また藩政時代の松尾芭蕉の来訪は有名で、「閑さや巖にしみ入る蟬の声」を詠んだ句碑が参道にあります。

円仁は山寺を開く際、秋保側から二口街道を通して巡錫したとされ、様々な逸話を残しています。二口街道もこの円仁によって確立されたものとも伝えられています。

## 立石寺

天童市へ

山寺駅

11

## 七曲入口山形側 山形盆地の素晴らしい遠望



馬形集落

二口林道起点(山形)

馬形ゲート

七滝ゲート

8

七曲



面白山駅

南面白山

小東峠

山王岳

糸岳

6

二口峠(山伏峠)

塩釜大明神

7

5

展望台

4

二口番所跡(境目守屋敷跡)

3

白糸ゲート

2

磐司(日陰磐司)

1

秋保ビジターセンター

1

秋保ビジターセンター

1

二口林道起点(宮城)

2

西磐司展望地

3

白糸ゲート

4

二口番所跡入口

5

展望台

6

二口峠

7

境目ゲート

8

七滝ゲート

9

馬形林道ゲート

10

二口林道起点(山形)

11

山寺駅

# 二口峠越え トレッキングコース



## 6 鹽竈大明神碑・二口峠



藩政時代後半に立てられた「鹽竈大明神の碑」は、仙台と山形を結ぶ二口街道を生魚が運ばれた証です。名取川沿いに付けられた谷の深いこの街道は、魚の鮮度を保つのに適していたと云われ、塩釜の魚を取扱った仙台的商人たちによって建立されたもの。  
難所となる峠への荷揚げは、強力でなければならず、「しょいこ」による荷負い人夫とともに、峠越えの無事を祈った人々の願いが伺えます。

## 4 二口峠道しるべ石

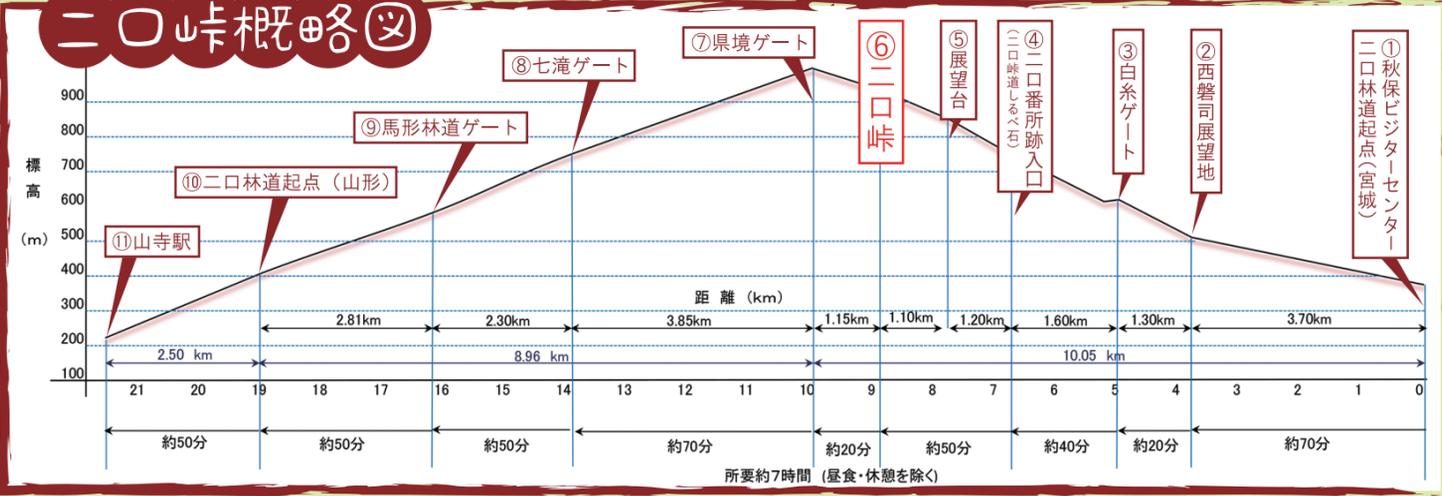


仙台市から山形市へ向かう最短の古街道が二口街道(秋保街道)です。二口という名称は、山形へと向かう名取川源流域にある峠越えの目印となった追分(通称二口番所)で、二つに分かれたことに由来します。  
一つは山寺へ抜ける山伏峠越え道、そしてもうひとつは高瀬へ抜ける清水峠越え道で、二口峠越えはこれらを総称して云われましたが、現在はどちらかというと山寺へ通ずる山伏峠越えを指すのが一般的となっています。  
峠越えの目標となった手前の谷にある二口番所跡には、古の痕跡を残す道しるべの石があり「右ハ山寺道左ハかうやゑ」と記され、今も街道を訪れる人々を誘い、静かに時を刻んでいます。

## あきう全体マップ



## 二口峠概略図



## 5 展望台 二口谷の壮麗な景観が広がる



## 初冬の糸岳



西磐司の景観が冴える風ノ洞橋

※車両で二口峠を通行可能なのは、秋の限られた期間です。詳細は秋保ビジターセンターまで。(TEL:022-399-2324)